

2008年 11月号 Mini-WAN



○海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰



表彰の様子

10月22日、田原市立東部中学校が「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の三河港湾事務所長表彰を受賞され、当事務所の塩田所長から表彰状を授与いたしました。事務所長表彰は今年度から始ったもので、田原市立東部中学校が記念すべき第1回目の授賞となりました。

我が国は海で囲まれており各分野にわたり海と深くかかわっています。本表彰の目的は、沿岸域の住民、船舶利用客、海を愛する方々による海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民により一層海への親しみを深めてもらうとともに、海の利用・開発、海洋環境保全への理解と協力を得て、より一層の普及を図ろうというものです。

田原市立東部中学校は、全校生徒、先生、保護者の方々による奉仕活動として「表浜ふれあいフェスティバル」に平成10年から毎年ボランティアで参加しており、表浜海岸（田原市大草町～六連町）清掃を実施していることが評価され受賞につながりました。今後も、様々な方々と一緒に、海をきれいにするための取り組みを通じて豊かな海を実現していきたいと思ひます。

○国際自動車コンプレックス第28回研究交流会

10月24日、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」（豊橋市）にて、国際自動車コンプレックス第28回研究交流会が開催されました。

今回の交流会では、神戸市みなと総局豊田巖参事を招き、「みなとの防災について～神戸港の経験から～」と題した講演が行われました。

平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震で被災した神戸港の施設の被災状況、震災直後の状況と対応、神戸港復興の計画と工事、港勢回復に向けた取り組みを中心とした内容で、みなとの防災を考える上で、大変貴重なお話を聴くことが出来ました。今回の講演を通じて、まず防災に関する現状の問題点を整理すること、日頃から被害を想定した訓練を実施すること、産・学・官・民の連携を強化することの重要性を再認識しました。この経験を、現在策定している三河港のBCP（Business Continuity Plan）に活かしていきたいと思ひます。



豊田参事の講演

○一色町みかわベイフェスティバル

10月25、26日、今年で8回目となる「一色町みかわベイフェスティバル」が、さかな広場（一色町）で開催されました。

一色町の三大特産品である「うなぎ」（2007年の生産量5,734トンで、全国生産量の約3割を占め日本一）、「えびせんべい」（年間生産額約110億円、全国の60%を占め日本一）、「カーネーション」（県内生産額の約1/3）をはじめ、地元三河湾で獲れた海の幸たっぷりの「海鮮おでん」、地元産のお米「矢作の恵」で作った「おむすび」など、一色町の産業について紹介するとともに、無料で配られました。

また「一色っ子による産業展」と題し、町内各小学校の児童が地元産業を題材とした学習発表も行われ、沢山の人の注目を集めていました。ステージでは、郷土太鼓や一色中学、一色高校の吹奏楽部の演奏、海産物のセリ市等様々なイベントが開催され、訪れた人々を楽しませていました。



郷土太鼓の演奏

海鮮おでんコーナー

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★

Mini-WANとは
港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- みなとの防災を考える講演会 ○伊勢湾海上交通センター施設一般公開
- 総合学習への協力 豊川市の3つの小学校の5年生が三河港見学
- 韓国の建設関係者が三河港視察 ○大型帆船「海王丸」が衣浦港へ寄港
- 日本水産工学会秋季シンポジウム開催
- 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰
- 国際自動車コンプレックス第28回研究交流会 ○一色町みかわベイフェスティバル

☆ CONTENTS ☆

☆巻頭コラム☆ 三河港湾事務所長 塩田 昌弘

10月19日に、環境ボランティアサークル「亀の子隊」の皆様と、渥美半島先端に近い西の浜で海岸清掃を行いました。毎年この時期に、中部地方整備局では「川と海のクリーンアップ大作戦」と銘打って、住民と行政が力を合わせて河川や海岸の清掃活動を実施しており、当事務所では亀の子隊の方々と共同で行っています。

当日は朝9時集合。大変天候もよく、現場は既に多くの釣り客で賑わっていました。参加者は54名で、約1時間かけて海岸に漂着したゴミを清掃しました。1週間前に他団体の方が同じ場所を清掃済みとのことでしたが、それでも約120kgのゴミが集まりました。亀の子隊の代表の方によれば、この時期にしては昨年の半分くらいとのこと。



海ゴミは、全国でも問題となっており、世界遺産に指定された北海道の知床半島でも大量のゴミが流れ着いています。全国的に見れば、三河湾内は比較的影響が少ないと言われてはいますが、それでもこれだけのゴミが発生していることは非常に大きな問題です。

亀の子隊の皆様は、毎月1回、海岸清掃を行っており、その活動は既に10年が経過されています。環境問題に対して頭で問題を理解するだけでなく実際に行動に移されていること、長期間継続されていることに敬意を表したいと思ひます。機会をみて、また参加したいと思います。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



みなとの元気は日本の元気



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

○みなとの防災を考える講演会

10月4日、NPO法人中部みなと防災ネットの主催による「みなとの防災を考える講演会」が開催され、豊橋技術科学大学青木伸一教授より「港の防災からみなとの防災へ」を、名古屋産業大学石橋健一准教授より「三河港における産業防災」をご講演いただきました。

青木教授からは、港の防災を考える際、港を単なる拠点と限定的にとらえるのではなく、地域の核として背後圏を含む広域の「みなと」としてとらえることが大切であること、その主旨に基づき、みなとは災害時には物資輸送拠点としての機能だけでなく、経済復興拠点としての役割も果たすことを念頭に置く必要があることを説明されました。また、石橋准教授からは、近年重視されるようになってきたBCM（事業継続計画）についてISO（国際標準化機構）のシリーズ化の動きがあり、今後は策定するのが普通という流れにあること、産・学・官が協働して防災マネージをする必要があるといった主旨の説明がありました。

近年、局所的な集中豪雨があったり、大規模地震の発生が危惧されており、これから我々が実施していく港の防災について非常に参考になる講演会でした。



講演会の様子

○伊勢湾海上交通センター施設一般公開

10月5日、伊勢湾海上交通センター（田原市）の施設一般公開がありました。

同センターは、渥美半島と三重県鳥羽市の間に位置する伊良湖水道航路を航行する船舶に対し、①航路の状況・通航船舶の動向・気象の状況等の船舶交通の安全に必要な情報を提供する情報業務、②入航順序の時刻調整や航路入航制限等を行う航行管制業務、を行っており、三河港や衣浦港、名古屋港、四日市港などへ行き来する船舶の安全かつ能率的な運航に役立っています。

同センターでは、窓ガラス越しに伊良湖水道航路を行き来する船舶を見ることができ、一方、それらの船の大きさ、行き先等がレーダー上でも確認することができるため、来場された方々が興味深く見入っていました。



レーダー画面を見学

○総合学習への協力 豊川市の3つの小学校の5年生が三河港見学

10月9、10、22日、豊川市の3つの小学校（一宮西部小学校、東部小学校、金屋小学校）の5年生（計223名）が当事務所の監督測量船しおさいで三河港を見学しました。

今回は、社会科学習「日本の工業と貿易」の一環として、三河港での車の積み降ろし、周辺の施設、海上での工事の様子などの見学の他、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」（豊橋市）で、三河港の役割と主な輸出・輸入製品、貿易相手国について学習しました。

しおさいの係留場所に到着すると児童達は「船に乗れてやったー」とか「スナメリがみたい」と歓声を上げて喜んでいました。

船内では、自動車の取扱いが世界トップクラスの三河港について



監督測量船しおさいの前で、はいポーズ！

の説明を行い、みんな興味深々に、自動車の輸出について「アメリカに自動車を運ぶのに何日かかるの？」とか、「三河港にある車は一日に何台あるの？」などの質問がありました。

30分程の港内見学でしたが、普段接しない港の施設や船からながめる風景を満喫できたのか、どの生徒たちも下船の際には「また来たいです。ありがとうございました。」と笑顔で帰っていきました。



三河港になにがあるの？と興味深々

○韓国の建設関係者が三河港視察

10月14日、韓国の建設関係者8名の方が、三河港で行っている防波堤築造工事と航路浚渫工事を視察されました。当日は、雨や高速道路工事渋滞により大幅に予定が変更となったため、残念ながら船内からの視察は短時間となってしまいましたが、目的の工事視察を行うことができました。

同じ建設関係に携わる方々ということで「現場に新規の作業員が来た時の教育の方法」「台風時の対処方法」「作業員の人数」など、安全対策や工事の詳細等について熱心に工事担当者へ質問をしていました。今回は短時間のため、お互いの情報交換が十分にできませんでしたが、双方にとって貴重な機会であったと思います。



船内から視察

○大型帆船「海王丸」が衣浦港へ寄港



衣浦港に向かう「海王丸」

10月16～20日の間、碧南市制60周年記念事業の一環で独立行政法人航海訓練所の大型帆船「海王丸」が衣浦港中央ふ頭東地区に寄港しました。衣浦港への寄港は平成12年11月に続き今回が6回目です。この「海王丸」は商船学校の練習船として誕生し、これまでに約11,000人も若者を育ててきた帆船です。

今回は、83名の商船学校の実習生が乗船しており、寄港中は、セイルドリル訓練（帆を張る訓練）や一般公開が行われました。また、夜間には船のマスト等にイルミネーションが施され、普段は真っ暗な衣浦港にその美しい姿を照らしていました。一般公開では船内の見学ができ、家族連れの方で賑わっていました。

最終日には、多くの人々に見送られ、宮崎県の細島港に向け出港しました。その後、神戸港、広島港、下関港、鹿児島港、東京港に寄港し、2月にはハワイのホノルル港に向かう予定になっています。



一般公開された船内

○日本水産工学会秋季シンポジウム開催

10月17、18日、平成20年度日本水産工学会秋季シンポジウム「内湾における環境修復の方向性と新手法」が、蒲郡市民会館で開催されました。

本シンポジウムは、苦潮（青潮）の影響によるアサリの大量死など、深刻な漁業被害を抑制するための環境修復のあり方について、負荷削減だけでなく、干潟・浅場修復の必要性も議論されていることを踏まえ、内湾環境修復の方向性や、その技術的課題について三河湾を事例として議論することを目的としたものです。内容としては、「内湾環境修復の方向性」「干潟・浅場造成」「浚渫窪地の埋め戻し」「新しい環境修復研究」の4つのテーマに分けられ、計13名の方からの発表がありました。発表者は、大学教授、研究機関、民間企業、愛知県水産試験場、国土交通省の現地事務所と幅広い分野から選出されており、関係機関の連携の重要性を示すものでした。



シンポジウムの様子

当事務所からは、塩田所長が「干潟・浅場造成」のセッションで、「港湾整備から発生する土砂の環境改善への活用」と題した発表を行い、過去の取組としてシーブルー事業、深掘り跡の埋め戻し、また、現在の取り組みとして新たな干潟造成材の検討、について報告しました。

総合討議では、愛知県水産試験場鈴木輝明場長より、豊かな海を取り戻すために三河湾への流入負荷規制のあり方、今後の干潟・浅場造成に使用する材料、苦潮の発生源ともなっている窪地の解消等問題を抱えているが、今後も検討を続け効果的に環境修復を継続するため、各機関の協力体制を強化し、事業実現に結びつけたいと取りまとめ、シンポジウムを締めくくりました。

2日間、かつ週末にかかるシンポジウムにもかかわらず、非常に多くの出席者があり、特に初日は立ち見の参加者も出るほどでした。これは、三河湾の環境改善に対する関心の高さを示したもので、当事務所としても、引き続き三河湾の環境改善に積極的に取り組んで参ります。



稲垣副知事の挨拶